

かとうきよまさくようとう  
加藤清正供養塔

区指定文化財（金石文）

昭和49年（1974）2月2日指定

所在地：池上本門寺 池上1-1-1

交通アクセス：東急池上線池上駅から徒歩10分

公開の有無：常時公開



本門寺境内の西側、靈宝殿の裏に東向きに建つ宝篋印塔ほうきょういんとうです。石柵に囲まれた三重の壇上に総高411cmの石塔を置きます。反花かえりばな（下向きに造り出した蓮華の花弁）に上下を挟まれた基礎の各面に、被供養者の法号・没年、供養文、造立者、造立年などが陰刻されています。これによると慶安2年（1649）6月14日に瑤林院ようりんいんが父清正供養のために造立したことがわかります。基礎正面には慶長16年けいちよう（1611）6月14日が清正の命日として記されていることから、没後38年の忌日きにち/きじつに造立されたこととなります。

加藤清正は安土桃山～江戸時代初頭に活躍した武将です。豊臣秀吉とよとみひでよしにつかえ、天正11年（1583）の賤ヶ岳しずがたけの戦いで七本槍のひとりとして活躍しました。関ヶ原せきがはらの戦いでは徳川家康とくがわいえやすにくみし、その功績で肥後国（熊本県）の領主となりました。築城の名手として知られ、熊本城を築いて城下町を整備したのも彼の仕事です。日蓮宗の熱烈な信者であったため、領内での日蓮宗寺院の建立をすすめた一方でキリシタン弾圧政策を行いました。池上本門寺では寺域の整備と諸堂の建造に力をつくし、「此経難持坂」と呼ばれる96段の石段（区指定文化財）は清正の寄進によって造営されたもののひとつです。本門寺境内（大堂の南東あたり）には清正夫人のひとりである正応院しょうおういんの逆修ぎやくしゆ供養塔（「加藤清正室層塔」区指定文化財）もあります。

瑤林院は清正の娘で、紀伊国和歌山藩主徳川頼宣よりのぶの夫人となった人物です。父の清正、母の清浄院せいじよういんと同様日蓮宗信者でした。清正供養塔のほかにも、本門寺境内には正保4年（1647）に瑤林院の寄進しょうほうで鑄造された梵鐘（区指定文化財）が伝わり、照栄院妙見堂しょうえいいんみょうけんどう（池上1-31-11）には夫頼宣のために造った妙見菩薩立像（区指定文化財）が安置されています。頼宣の母養珠院ようじゆいん（お万の方）も熱心な日蓮宗の信者として知られ、紀州家は代々日蓮宗に帰依きえします。本門寺山内には紀州徳川家藩主の夫人や子どもたちの墓所が残されており（「紀州徳川家墓所」区指定文化財）、瑤林院の墓もこの墓域にあります。

清正供養塔は池上山内でも最大級の宝篋印塔で、その雄大な姿からは瑤林院の信仰心と孝養心の深さがうかがえます。山内の清正父娘に関わるほかの文化財とともにぜひご覧ください。